



山行報告

★乗鞍岳・西穂高岳独標(9月10日～11日)

参加者 会員(障害者4名、健常者5名)

到着する。今まで見えなかった御嶽山や中央アルプスがよく見える。中央アルプスの左手には、南アルプスが広がっている。

☆9月10日

ここ数日の天気予報は、コロコロ変わって、予報の難しい気圧配置であることを実感する。実際に乗鞍高原に到着すると、すばらしい青空が広がっている。登山口となる肩の小屋口で下車し、歩きはじめる。山頂が青空の下にくっきりと見え、雲海の向こうに南アルプスやハケ岳も見えている。

登山道脇には、シナノオトギリやイワギキョウが咲いているものの、ヨツバシオガマは実を付け、チングルマは全て綿毛となっている。ゴゼンタチバナも赤い実を付け、今は花の山と錦秋の山の間にある、静かな実りの秋だ。

肩の小屋で休憩し、剣ヶ峰を目指して登りはじめる。昨年の視覚障害者交流登山では、冷たい雨で全く展望がなかったが、今回はすばらしい天気で、槍穂高連峰もよく見える。手前には、摩利支天岳のピークにあるコロナ測候所がよく見える。

イワヒバリが岩の上でポーズを取ってくれる。朝日岳の岩の道をトラバースしながら登っていくと、朝日岳と蚕玉岳(こだまだけ)のコルに着く。ここからは権現池がよく見える。その向こうには、飛騨方面が見え、左手には大日岳が見えている。

さらに登り、頂上小屋を過ぎると、剣ヶ峰に



コロナ測候所と槍穂高を背に山頂に向かう

山頂で休憩した後は、来た道を引き返し、肩の小屋からは畳平に向けて広い道を歩く。畳平から平湯に向かうバスの時間が心配で、少し急いだが、発車10分前に畳平に到着した。



乗鞍岳山頂にて

畳平からバスを乗り継いで、新穂高温泉に移動する。そこからロープウェイに乗って西穂高口に着く。ここから、西穂山荘に向けて登る。かなり雲が広がってきて、山々の山頂付近は雲の中に入っている。雲が日差しを遮ってくれる

ので、比較的涼しく歩ける。

登山道脇には、ゴゼンタチバナやタケシマランの赤い実が目立つ。ガマズミやツリバナの実もなっている。木々の間から目指す西穂山荘も見えていた。



我々以外にも、多くの登山者が山荘を目指して登っている。小学校低学年くらいの女の子もお父さんと一緒に登っていた。

最後の緩やかなトラバースが始まると西穂山荘は近い。山荘の前では、多くの登山者が、くつろいでいた。受付を済ませて、小屋に入る。我々9人で、一部屋を使わせていただいた。

私たちも小屋の前で、くつろぐ。いくつかのパーティーのみなさんと交流を図れて、とても楽しい一時だった。

☆9月11日

4時前に起きると、部屋の窓から満天の星空が見え、流れ星も見えた。出発準備をして、朝食を済ませ、6時前に山荘を後に、出発する。最初のピークとなる丸山への登りは、大きな石の間を縫うように登るが、なかなかサポートのしにくいところだ。ふり返ると、手前の西穂山荘の向こうに、乗鞍岳と焼岳が見えている。西側には笠ヶ岳もよく見えている。その左下には、岩登りで有名な錫杖岳もよく見えている。

丸山の山頂付近からは、これから向かう独標から西穂高岳への稜線がよく見える。恐竜の背中のように、いくつものピークが連なっている。東側には霞沢岳とその下の上高地が見える。遠

く甲斐駒ヶ岳のすぐ左に高く見えない富士山が見えた。私たちのいるところがまだ低いために、手前の甲斐駒の方が大きく見えるのだろうか？



独標への登りにかかると、Yさんが「虹だ」という。左手を見てみると、ちぎれ雲にブロッケンが見られた。一瞬だけの自然のプレゼントに感激でした。



独標の手前の岩稜を慎重に超えると、最後の岩場の登りとなる。三点支持を守り、しっかりとサポートして全員、独標に登り着いた。独標に立つと、西穂高岳から奥穂への稜線、そして吊り尾根と前穂高岳、そして明神岳への稜線がよく見える。西穂の左手には、樺沢岳の向こうに鷲羽岳が見え、その左には雲ノ平にある祖父岳、そして双六岳、その左奥に黒部五郎岳も見える。先月歩いた山が見えるのはうれしい。そして、抜戸岳から笠ヶ岳への稜線が間近に見える。そんな中で、すぐ近くに見えるピラミッドピークはやはり気になる。

独標から先は、痩せた岩稜が続くため、視覚

障害者の人たちや高所恐怖症の人には無理なため、岩場を怖がらない3人とピラミッドピークまで空手で往復することにする。

まずは、独標の下りから気を引き締める。さらに両側がスッパリ切れた痩せた岩稜が続く。鎖なども付いておらず、慎重に三点支持を守って上り下りする。



ピラミッドピークに着くと、西穂高岳がより一層高く聳えている。奥穂高岳も少し近づいたように見える。独標でみんなが待っているの、登山者の方に写真を撮っていただき、早々にピークを後にする。

独標に戻ると、待っていたみなさんはソウンスリングを身体に付けて、しっかりと準備をしていた。時間を有効活用できて、ありがたかった。

ピラミッドピークに行った人たち以外は、ロープで結び合って、私が確保して下ってもらおう。順調に下り、急なところを過ぎたところで、ロ

★宝永山(9月18日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

このところ、天候が不安定で、予報も何度か変わってきたが、今日はすばらしい天気恵まれた。富士駅に向かう車窓から富士山がよく見えていた。

富士駅から富士宮口五合目に向かうバスに

ープを外す。次の岩稜も順調に超えて、下っていく。

朝、薄い雲がかかっていた上高地の大正池は、すっかり姿を現し、緑色の湖面を見せていた。

西穂山荘で、預けていた荷物をパッキングし直し、ロープウェイの駅を目指して下りはじめ。昨晚、一緒に山荘の前で歌った人たちを追い抜き、予定どおりの時間にロープウェイの西穂高口に到着した。ふり返ると、今日登ってきた独標、ピラミッドピーク、そして西穂高岳が高く聳えていた。

新穂高温泉には、以前、バス停近くに無料の温泉があったが、今はなくなっていたため、バスで平湯まで行き、平湯のバス停にある温泉に入ることにする。温泉で、汗を流して、すっきりして、松本へのバスに乗り込む。みんな心地よい疲れにぐっすり眠りについてた。

コースタイム

9/10 肩の小屋口(7:15) … 肩の小屋(7:50-8:00) … 乗鞍岳剣ヶ峰(9:05-9:25) … 豊平(10:40) — 西穂高口(14:10) … 西穂山荘(15:45)

9/11 西穂山荘(5:55) … 独標(7:25-7:35) … ピラミッドピーク(7:55-8:00) … 独標(8:20-8:30) … 西穂山荘(10:00-10:15) … 西穂高口(11:30)

乗り込む。さすがに乗る人は少なく、ゆったりと座ることができた。

バスが上がって行くにつれ、遠くに聖岳や赤石岳、荒川三山の南アルプスも見えてきた。駿河湾の海岸線もよく見える。

五合目に着き、トイレを済ませて、簡単な自己紹介の後、すぐに出発する。9月になるとバスの本数が極端に少なくなり、14時30分発の帰りのバスを逃すと、次は18時になってし

まう。14時30分発のバスに間に合わせるように、スピーディーに行動するように進める。

6合目に着くと、山荘の方が、夜は11時頃から2時まで、激しい雨が降っていたのに、3時になったら、それまでの雨がうそのように晴れ渡り、ふもとが見えたり、満天の星空が見えていたそう。雨上がりのおかげか、すっきりと晴れ渡って、今日は快適ですばらしい天気恵まれた。



六合目からは山頂への道と分かれ、宝永山への道へと進む。尾根の上へ上がると、宝永山と宝永火口がよく見える。見下ろすと第二火口もよく見える。ここから見る富士山はやはりいびつだが、山腹を削り取る自然の力に驚くばかりだ。



火口へはトラバース気味に下る。多くの花は終わっているが、フジアザミが一株だけ咲いていた。ここからは、宝永山に向けての登りとなる。ザレザレの道を足を取られながら登っていく。元気だったS君は、シャリバテだと思いが、かなり疲れたようで、何度も地面に手を突きな

がら登ってくる。しかし、登山道の横の斜面に登ったり、無駄な動きが多すぎる。石を落とすこともあるので、帰りには、石を落とす人には登山禁止令を出すよといったのだが、効き目はなかった。

バスでいきなり標高の高いところに運ばれて、すぐに登りはじめるので、この登りはなかなかこたえる。それでも、大砂走り方面の登山道と合流すると、今まで見えなかった風景が目に入ってくる。砂走り方面は、植物が全くなく、殺伐とした風景だった。

全員揃ったところで、宝永山に行って昼食タイムとする。風が強く寒かったが、山頂標識の石の板の上に寝転がると、温まった石が身体を温めてくれる。みんなゴロゴロと横になっていた。山頂からは、これまで見えていた御前崎や日本平、清水港、伊豆半島、愛鷹山の他に、箱根の山々がよく見えた。今日は海岸線もくっきりと見える。足下には、二ツ塚のおもしろい地形が見えていた。



宝永山から来た道に戻り、時間に少し余裕ができたので、第二火口まで行ってみることにする。第二火口まで来ると、愛鷹山の越前岳はより一層近く見える。また、ふり返ると、宝永山から宝永火口までのなだらかな曲線がすばらしい自然美として、目に入ってくる。荒々しい宝永火口の上に富士山の山頂もよく見えていた。

第二火口からは樹林帯をトラバースして六合目のバス停に向かった。

バス停に着くと、上がってきた富士急の観光バスの運転手さんが道路の混雑で、路線バスは1時間ほど遅れそうだという。かなり渋滞しているようで、しかたない。それでも、30分ほど待っていたらバスが来てくれた。

富士山の脇にできた吹き出物のような宝永山という感じを持っていたが、展望のすばらしさや何とも言えない曲線の美しさに、来て良か

★丸山・霧降高原(9月23日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)
会員外(健常者2名)

つい2日前まで、暑い暑いと言っていたのが遠い昔のように感じるくらい、今日は肌寒い日だった。

東武日光駅から大笹牧場行きのバスに乗って霧降高原で下車する。今回は、初参加のAさんと登山初参加のMさんがいるので、しっかりと自己紹介をする。小6のK君と小4のSちゃんも参加で、楽しくなりそうだ。

バス停の近くで、遊歩道の工事をしている方に登山口を案内されて登りはじめる。何でも、スキー場が流行らなくなったので、スキー場を閉鎖して、周囲を公園として整備するらしい。

まずは緩やかな傾斜の道を登る。しかし、多くの人が歩くため、雨の浸食が進みやすくなったことで、登山道はかなりえぐれて、滑りやすくなっている。滑りやすいからと言って脇を歩けば、またその地肌が出て、植物が育たず、浸食が進む。だから、できるだけ本来の登山道を離れないように心がけるが、滑りやすさと段差の大きさが大きすぎるところは避けざるを得ない。結局は、かなりの部分、浸食していないところを探して歩いてしまった。

どんよりした曇り空であるが、時折青空も見

ったなと思える山でした。意外に登っている人が多かったことにも驚きました。

コースタイム

富士宮口五合目(10:40) … 六合目(11:00-11:05) … 大砂走り方面分岐(12:05-12:20) … 宝永山(12:30-12:55) … 第二火口(13:45) … 富士宮口五合目(14:15)

える。晴れて欲しいと願いながら、急登をがんばって登る。Sちゃんもがんばって登っている。K君は写真を撮りながら、ゆっくりと登ってくる。



急登を必死に登る

急登を根っこに掴まったりしながら登ってくると、展望の良いところに飛び出した。キスゲ平と書かれているが、地図では小丸山と書かれているところのようだ。これから登る丸山がよく見え、赤薙山方面への尾根も見えている。ここから先は、クマザサ帯に出るので、晴れていたら気持ちの良いところだろう。



草原に立つSちゃん

クマザサ帯から丸山への最後の登りとなる。数メートルおきに付けられている数字を書いた小さな標識をSちゃんと探しながら登る。最後は75位だったろうか？ この標識は、小丸山から丸山の山頂まで付けられているようだった。小丸山が起点の0だったようだ。



丸山の山頂にて

丸山の山頂に着いたが、残念ながら霧に被われていて展望がない。それでも、昼食を取り、みんなで集合写真を撮る。女性2人組のパーティーが、八平ヶ原に向けて下っていったが、腰くらいまでのクマザサの藪で、足下が見えないということで引き返してきた。私たちも、そちらに向かう予定を変更して、来た道を引き返すことにする。

小丸山に着いたときは、ふもとの展望が広がり、日光の町などが見えていた。さらに下っていくと、栗山ダムも見えてきた。予定より1時

★鷹ノ巣山(10月2日)

参加者 会員(障害者5名、健常者7名)
会員外(健常者2名)

東日原でバスを降り、自己紹介のあと、歩きはじめる。どんよりと雲がたれ込めていて、もしかしたら雨が落ちてくるかも知れないような空模様だ。正面には、稲村岩が鋭く立ち上がって見えている。これから日原川を渡り、稲村

間半くらい早くバス停に着いたのだが、予定のバスまで待つ以外になく、寒さに震えながら待つことになった。



小丸山から見た丸山

しかし、Fさんが日光に住む大学時代の友人に連絡してくださり、何と、飲み物を仕入れて、迎えに来てくださった。2回に分かれて運んでいただくことになり、後のグループは、もう少し待つことになった。ポツポツと雨が降り出したかなと思ったら、少しだがあられが降りはじめた。今年、初めて見る白いものだった。

Fさんと友人の方に感謝して、後のグループも車に乗せていただいて、日光駅に向かった。

コースタイム

霧降高原バス停(10:15)…キスゲ平(小丸山)(11:20-11:35)…丸山(11:55-12:30)…霧降高原バス停(13:55)

岩の右手から回り込むように歩き、稲村岩から続く稲村岩尾根に上がることになる。

車道から日原川に架かる橋に向かうが、左側が切れていて、踏み外さないよう、要注意の場所だ。橋の上から見る日原川は、澄んだきれいな水が流れている。

橋からは、いきなり急登になる。その後、斜面をジグザグに登り、沢の左岸側をトラバースするようになる。沢が近づいてくると、今度は左岸、右岸と3回ほど渡り返す。橋が架かっていたり、渡渉気味に渡ったりするところがある。

沢から離れ、急登をがんばると、稲村岩尾根に出る。ここから、稲村岩のピーク方面に行く指導標があったが、しっかりとした登山道なのだろうか？ どちらにしても、私たちは、鷹ノ巣山方面に向かう。



ここまで休憩なしで来たので、かなり良いペースで上がった。今日は、帰りのバスに遅れると、数少ないタクシーを呼び、何度か往復することになる可能性があるため、休憩を少な目にして、早め早めの行動を心がけたい。

尾根に上がってからは、ところどころ急なところもあるが、全体的に傾斜が落ちて、快適な登りとなる。登るにつれ、霧の中に入るようになる。後に青空が見えてきたと思ったとたんに、ポツポツと雨が落ちてきた。しかし、この雨は時々ポツポツと落ちる程度で、連続して降る雨ではなかった。



今回は、Yさんが体調が良くないようで、少し遅れたが、13時に山頂に到着した。Pさんが、少し早く山頂に行き、お汁粉を作っていたくださった。先月、結婚したYOさんのお祝い

にと、Pさんが準備してくださったものだ。他のみんなもご唱和に預かり、おいしくいただく。

YOさんは、先月が誕生日でもあり、ケーキ帽子をかぶって、山頂での集合写真に収まった。

山頂から、セツ石山方面への縦走路を少し歩くと鷹ノ巣山避難小屋に到着する。トイレもある立派な避難小屋だ。

避難小屋からは、水場を通り過ぎて、浅間尾根を下る。ここは、なだらかな道で、全体的にとっても歩きやすい道だ。木々の葉は、緑色が少し薄くなり、初夏のような柔らかな緑だ。紅葉に向けて、緑色が落ち始めているのだろう。霧の中に溶け込んで、幻想的な風景を作っている。



浅間神社を通り過ぎて、尾根から外れると、民家の屋根が見えてくる。車道に出て、しばらく歩いたあと、再度、山道に入って下る。そろそろバスの時間が心配になってくる。再度車道に出てからは、ハイスピード歩行で飛ばす。今回、初参加のTさんは、歩くのが得意だそうで、トップに立ってペースをあげる。

先頭が発車5分前にバス停に着いたが、後のメンバーが心配で、ザックを置いてTさんと迎えに行く。道に迷って遅くなっていたようだが、合流してからは走ってもらい、1分遅れくらいでバスに乗り込むことができた。バスの運転手さんと、後に乗っていた男性に申し訳ないことをしたが、おかげで助かった。

バスは、奥多摩湖の畔を走り、奥多摩駅へと向かった。サポート不足の応援に参加していただいたみなさまに、心から感謝申し上げます。

コースタイム

東日原バス停(9:15) … 稲村岩

(10:25-10:35) … 鷹ノ巣山(13:00-13:45)
… 峰谷バス停(16:15)

★蓼科山(10月8日～9日)

参加者 会員(障害者4名、健常者6名)

☆10月8日

この週末は素晴らしい天気恵まれる天気予報だ。そのためもあってか、新宿7時発のスーパーあずさ1号は、10分前に並んでも全く座れず、茅野駅まで満員状態で、デッキに立つことになってしまった。

茅野駅で、全員合流し、ピラタスロープウェイ経由東白樺湖行きのバスに乗車する。竜源橋でバスを降り、恒例の自己紹介。今回は、若者のIさんが初参加だ。

バス停からいきなり急な登りとなるが、その後は、じわりじわりと高度を稼いでいく。時折、紅葉した木々が目を楽しませてくれる。登りの途中で、昼食タイムとする。止まっていると、どんどん寒くなってくるので、早々に昼食タイムを切り上げ、登りはじめる。



蓼科山を背に亀甲池を目指す

少し行くと、登りもほぼ終わる。平坦な道になると、天祥寺原の將軍平への分岐に出る。これから向かう側の山腹は、部分的に真っ赤に色づいて、素晴らしい紅葉となっている。左手には明日登る蓼科山が聳え、右側には北横岳方面

と大岳方面が見えている。山に囲まれたなかなか良い場所だ。

大河原ヒュッテに行く道と分かれ、右手に折れて、亀甲池に向かう。ところどころ、きれいに色づいたツツジの葉などが楽しませてくれる。カラマツは色づきはじめてばかりだが、その色合いもなかなか風情がある。

樹林帯を登ってくると少し開けた草原状のところに出る。ふり返ると蓼科山が後に聳えている。山頂にある蓼科山頂ヒュッテもよく見えている。草原には、まん丸の形をしたキク科の花がドライフラワーになっている。この植物は何だろうか？



亀甲池

亀甲池は、透明度の高いきれいな池だった。周囲はあまり紅葉していないが、尾根の上に真っ赤な一帯があった。



双子池雌池に映えるもみじ

亀甲池からは双子池に向けてさらに登りとなる。北八つらしい苔むした山腹につけられた道は、岩などがとても滑りやすいので、注意して登り、そして下る。少し下ると、湖面が見えてきた。双子池の雌池に到着する。池に紅葉が映って美しい。少し行くと、テント場になる。Yさんは、今日は一人でテント泊だ。他のメンバーは、池の畔の紅葉を楽しんだりしながら、双子池ヒュッテに向かう。ヒュッテに到着すると、雄池も見えるようになる。雄池は、水質が良く、溜まった水をそのまま飲めるそうだ。

ヒュッテでは、個室に入り、ゆっくりと休むことができた。



飲むこともできる双子池雄池

☆10月9日

昨晚、外に出たときは曇っていた空が、4時頃にはきれいに晴れて、満天の星空だった。天気がよい日は、通常よりも早く朝食を作ってくださいという管理人さんの言うとおり、5時半に朝食が始まった。

朝食後、出発準備をして、ストレッチをする。小屋の前にある温度計は、1℃を指しているが、上着を着ると寒くないので、それほど冷え込んだ感じはしなかった。

テント泊のYさんも合流して、ヒュッテから双子山に向けて登りはじめる。シラビソなどの針葉樹の林に、朝の木漏れ日が差し込み、美しい。樹林の中のクマザサ帯を登っていくと、見晴のよいところに飛び出した。そこは双子山の山頂だった。これから登る蓼科山や前掛山、そ

の左には、昨日歩いた天祥寺原とその向こうに中央アルプス、そして後には大岳と北横岳、右手には浅間山がうっすらと見えていた。



双子山山頂から見た北横岳(右)と大岳(左)

すばらしい展望だが、寒くてゆっくりしてられない。早々に下りにかかる。樹林帯に入り、また樹林が切れるところに出ると、遠く北アルプスの鹿島槍などがよく見える。その左手には、剣岳や立山も見えていた。少し下ると、大河原ヒュッテも見えてきた。

大河原ヒュッテまでは、車で来られるため、駐車場には車がたくさんあった。大河原ヒュッテからは、樹林帯の中を前掛山目指して登っていく。傾斜が落ち、平坦になると前掛山の一角だが、今回は、山頂標識を通らない。ただ、途中で「佐久市最高地点」という標識があった。

山頂を過ぎると、立ち枯れの木が密集している縞枯れ現象が見られた。そして、その隙間からこれから登る蓼科山が間近に望めるようになってきた。



大岩がゴロゴロした斜面を登り山頂を目指す

蓼科山荘に着くと、一気に人が増える。白樺高原国際スキー場方面から登ってきた人が大

勢いる。これまでの静けさが嘘のようだ。

蓼科山荘には、カバノアナタケという幻のキノコが売られていた。Nさんの話によると、癌にも糖尿病にも、高血圧にも良いキノコらしい。私を含め、何人かが購入していた。

蓼科山荘からは、大幅に人が増えて混雑していた。しかも、急な岩場となる。樹林帯を抜けると、さらに大きな石がゴロゴロした視覚障害者の人たちには、最も歩きにくい場所となる。それでも、慎重に登り、蓼科山頂ヒュッテに到着する。ここはランプの宿らしい。一度、泊まってみてみたいものだ。



山頂標識の近くは、ゆっくり座れるところがないようなので、集合写真だけ撮って、反対側の展望板のあるところへ移動する。山頂は広いが、どこも大岩がゴロゴロしている。ただ、中心部だけは土の部分もあって、比較的大岩が少なかった。



展望板のあるところに来ると、北から南側まで展望が一気に広がる。白馬岳から穂高岳、乗鞍岳までの北アルプスの山々、そして御嶽、中

央アルプス、南アルプスの仙丈岳、甲斐駒ヶ岳、北岳、間ノ岳、鳳凰三山まで、見えている。ただ、近くの南八ヶ岳は、雲に隠されていた。



ここで昼食タイムとするが、山頂から下る道は、頂上ヒュッテのすぐ横からだったため、昼食後、もう一度、ヒュッテに戻る。ここから、計画では、蓼科山荘に戻り、天祥寺原から竜源橋に下る予定だったが、すっかり忘れていて、蓼科山登山口に直接下るコースを取ってしまった。ただ、結果的には、今までと違った道で変化があり、こちらのコースの方が良かったようだ。

ただ、大岩がゴロゴロして非常に歩きにくい道が長く続いた。樹林帯に入ると、土の部分も増えて、比較的歩きやすくなるが、滑りやすく段差も多く、そんな道が、2,100mくらいまで続いた。しかし、その後も、決して歩きやすい道とは言えず、厳しい道であった。

それでも、左手には、雲の中に隠れていた南八ヶ岳がよく見えるようになり、下る方向には八ヶ岳峰とヒュッテアルピレオがよく見えていた。

SさんとMさんが少し遅れたが、予定より短いコースを下ったこともあり、バスの1時間前にバス停に着いた。バス停の前にある女神茶屋で、そばやうどんを食べ、打ち上げをしてバスを待った。

混んでいたバスを運転手さんの指示に従って、途中で乗り換え、茅野駅に向かった。帰りのあずさも、座ることはできず、ずっとデッキ

で立ちっぱなしだった。

山の疲れに立ちっぱなしの疲れが加わり、参加したみなさま、お疲れさまでした。それでも、好天に恵まれて、秋の蓼科を満喫できたのだと思います。

コースタイム

10/8 竜源橋 (11:05) … 昼食

★大平山(10月16日)

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)
会員外(健常者2名)

波久礼駅にてストレッチ後、自己紹介をして出発しました。

今回は初参加の方が2名です。

天気が良く気温が上がって陽射しが熱く感じるくらいでした。

大平山という名称は地元の方にはなじみがないようで大体の方が「この辺は小林みかん山だよ」と教えてくださいます。

舗装されたハイキング道を登り一汗かいたあたりでみかん農家の看板が目につくようになります。ほとんどが20日からの営業ということでまだ販売などしていませんでしたが1軒にぎわっている所がありました。



雨上がりは水滴が美しい

Nさんらが声を掛けて聞いてみたところ「試

(11:45-12:05) … 天祥寺原(13:15) … 亀甲池(13:45-14:00) … 双子池ヒュッテ(14:45)

10/9 双子池ヒュッテ (6:25) … 双子山 (7:05-7:10) … 大河原ヒュッテ (7:45-8:00) … 蓼科山荘 (9:35-9:50) … 蓼科山(10:40-11:35) … 蓼科山登山口(14:30)

食してよかったら買って行ってください」とのことでお言葉に甘えみんなでみかんを頂きました。何人かがみかんを購入し柿も頂きました。



みかん園で昼食となった

そうこうしているうちにお昼の時間となりそのまま場所をお借りしてお昼を食べることにしました。みかん農家の橘香園の方々には大変親切にして頂き、テーブルや椅子まで用意して頂きました。



橘香園にて

食後に農園の方から農園の間を抜けて葉原峠に抜ける道を教えて頂き林道歩きが始まりました。葉原峠からやや後ろに戻るように登る

ルートを行くと大平山の三角点ですが展望がない場所であるので今回はパスしました。

舗装道路を少し進み、再び林道に入って金ヶ岳と春日神社を目指して進みました。植平峠からは歩きやすい尾根道となり風が通って気持ちのいい所が続きました。春日神社手前で巻き道を左に入りましたが地図よりかなり手前だったようで予定ルートから外れてしまいました。

このあたりは地図にない道が多くあり登りはどうしても春日神社や葉原峠など高いところにたどり着きますが下りは注意が必要であると感じました。

林道を抜けて民家があったので野上駅の方角を聞いて確認しました。長瀬オートキャンプ場を抜けて長瀬のライン下りを見ながら真性寺まで歩きここでゴールとしました。

★杓子山(11月6日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)

天気予報は、雨時々曇りだったが、高速バスを予約しているため、中止することが難しく、実施することにした。ただ、雨雲の様子をネットで見ると、雨の降っていない場所もあり、ところどころ雨が降っている状況なので、雨が降っても長い時間降ることはないだろうと思っていた。

明け方、千葉はかなり雨が降っていたが、家を出る頃には止んでいた。富士山駅に着くと、厚い雲に被われて、富士山は見えなかったが、雨は降っていなかった。ここからタクシーで、ゲートまで行ってもらおうと思っていたが、道路が荒れているということで、タクシーは不動ノ湯までしか行ってくれなかった。

歩行時間が30分増えてしまったが、予定ど

日帰り入浴ができる長瀬グリーンホテルの送迎を依頼し初参加の2名は長瀬の駅でお別れしました。残ったメンバーで入浴して汗を流し17:24 発の電車でゆっくり帰りました。

みかん狩りなどイベントを兼ねた山行はまたやって欲しいという声が多く来年はこのような企画もしていきたいと思いました。

アルプの自由さが存分に発揮され思いがけない出会いもあり楽しい1日を過ごすことができました。皆様、ありがとうございました。

コースタイム

波久礼駅(10:00)…みかん狩り兼昼食(11:00-12:35)…葉原峠(13:20)…関東ふれあいの道分岐(14:45)…真性寺(15:20)…長瀬駅(15:45)

おり行くことにする。紅葉は、山の麓付近がピークのようなのだ。紅葉を楽しみながら歩く。



ゲートで休憩し、幅の広い林道のような道を登っていく。大権首峠までは、ずっと林道だった。大権首峠からは、忍野村方面がよく見える。マウント富士のホテルも見えていた。

峠からは急登が始まる。しかし、登山道は特に悪いところもなく、順調に高度を稼ぐ。最後にロープの張られた急な斜面を登ると、山頂に飛び出した。山頂からは、雲の間から富士山の山腹が見えていたが、山頂は見えなかった。そ

れでも、紅葉したふもとの風景が広がり、山中湖も見えていた。



山頂直下の急坂をロープに掴まって登る

山頂に着くと、ポツポツと雨が降りだした。しかし、それ以上、強くなることもなく、時々ポツポツくる程度でカッパを着る必要もない。

山頂を後にして、鹿留山方面に向かう。下りだと思っていたら、鹿留山手前の子ノ神の方が、杓子山より僅かに高かった。



杓子山山頂にて

子ノ神からは、あとは下るだけだと思ったが、急な岩場が連続している。こういうところが苦手なMさんが、お父さんのサポートでがんばって下っている。視覚障害者のMさんは、Yさんのサポートで順調に下ってくる。

かなり時間がかかったが、厳しい下りもようやく終わり、登山道も歩きやすくなってきた。ただ、内野発の予定のバスには間に合わないため、タクシーを呼ぶことにする。

紅葉を楽しみながら下っていくと、立ノ塚峠に到着した。ここからは、昭文社の地図には、林道のように書かれているが、幅は広いものの、岩の多いごつごつした道が続いている。時折、

ハッとするほど美しく色づいたモミジなどが現れる。



Mさんを2人で支えて下る

車道に出て、内野に向けて歩いていると、養鶏場が現れた。先頭グループがバス停の場所を聞いているが、どうせならここまでタクシーに入ってもらふことにする。タクシーを待つ間、養鶏場の方が、取れたばかりの卵を振る舞ってくださった。甘みのあるおいしい卵だった。



美しく色づいたカエデ

タクシーで富士山駅まで行き、高速バスに乗車して新宿に向かった。雨を覚悟していたが、青空がのぞいた一時もあり、予想外の天気恵まれて、秋の一日を楽しむことができました。

コースタイム

不動ノ湯 (9:35) … ゲート (10:10-10:15) …
大権首峠 (おおざすとうげ) (10:55-11:05) …
杓子山 (11:55-12:25) … 子ノ神 (13:05-13:10) … 立ノ塚峠 (14:55-15:00) …
田辺養鶏場 (15:50)

★岩本山(11月27日)

参加者 会員(健常者4名)

今回は、4人だけの参加で、さみしい状態だが、話は電車の中からとぎれることなく、最後まで続き、寂しさとは無縁のメンバーだった。

市役所の方から教えてもらったコミュニティバスこうめが来ると思い、富士駅のバス停で待っていたが、時刻表をよく見ると、月曜日から土曜日の運転で、日曜祝日は運休だった。バス停で1時間も待ってから気が付いたため、これからどうしようか相談し、まずはこの付近の地図を入手しようと駅員のところに行く。駅員さんから東海道とウォーキングコースの地図をいただき、よく見てみると、岩本山まで6kmくらいなので、歩いても行かれるということになり、乗り物を使わず、歩いていくことにする。

シャッターが下りて、とても商店街とは言えない商店街を歩く。商店街から東海道の道に入ろうとするが、女性2人は途中の店屋さんに立ち寄って、なにやら買い物をしている。焼きそばやノビルの茎の漬け物?などを買っていたようだ。

ところどころに道標のある道を西よりに進む。身延線の柚木(ゆのき)駅を過ぎて北寄りに向きを変えていくと、地元の方が、「東海道はこちら側ではないよ」と教えてくださった。「私たちは実相寺を目指しています」というと、それならこちらでOKとのことだった。旅行者に気遣ってくださる地元の方のやさしさに感謝です。

東名高速を越え、富士川の土手の道に上がると、富士山がよく見える。愛鷹山もよく見えていた。

実相寺は、日蓮宗の本山だけあって、立派な寺だ。ただ、ここから登りが始まる。急な階段が続き、汗ばんでくる。七面堂の手前では、鐘

があったので、突いてみる。

七面堂から少し行くと、レストハウスに出る。もう山頂の一角だが、実際の山頂がどこにあるかが分かりにくかった。駐車場からきれいな芝生の広場を抜けて、梅園を過ぎると、「岩本山の標高は193メートルです」という標識があった。



梅園と富士山

梅が咲く頃に来ると、梅の花と富士山を写真に写すことができ、すばらしいだろうと思う。今回は、梅がないが、澄んだ空気の中で富士山が見られるので良しとしよう。

展望台に上がると、わずかに雪の付いた高山も見られた。南アルプス深南部の山だろう。海の方には、伊豆半島がよく見える。



岩本山山頂にて

昼食は、展望台下の石のテーブルで取る。HNさんが、商店街で買ってきたノビルの茎の漬け物を出してくださいました。キンカンやKNさんのみかんもおいしかった。

下りは、みかん畑方面に行く。今回もみかん狩りとなったが、きれいに色づき、とてもおい



茶畑と富士山

しかった。途中には、茶畑があり、畑の向こうに富士山がよく見えていた。茶の花も咲いてい

ハイキング報告

★第29回ふれあいハイキング（しもつけ風土記の丘）（11月13日）

参加者 会員(障害者2名、健常者9名)
会員外(障害者1名、健常者3名)

今回は、八千代市の広報誌、広報やちよ10月15日号の表紙写真を飾ったKさんが、車椅子で参加だ。下見をしていないので、どんな道が待っているか分からないが、ハードルはみんな力で力を合わせて乗り越えていきたいと思っている。

まずは、壬生駅にはエレベータやエスカレータがない。駅員さんが4人来てくださり、Kさんの乗った車椅子を持って、階段を下り、そし



吾妻古墳にて

た。

今回は、バスの運行を間違っていたため、予定より1時間遅れで、しかも予定より大幅に長い距離を歩いたが、富士駅では予定どおりの電車に乗ることができた。電車の車窓からは、大きな富士山がしばらく見えていた。

コースタイム

富士駅(11:25)…岩本山(13:10-14:10)…富士駅(16:00)

て上がって改札まで行く。

改札を出たところで、自己紹介を行う。今日は、Kさんの他に、車椅子を押してくださるヘルパーさんと、Tさんの友だちのUさんとNさんが、初参加だ。また、横浜のHさんたち4人も久しぶりの参加で、新鮮でにぎやかになりそうだ。

まずは、吾妻古墳を目指す。踏切を渡り、車道を歩く。カルガモやマガモが泳ぐ黒川を渡り、左に折れていくと、吾妻古墳があった。入口からすぐに土の小径になったが、車椅子で少しだけ入ってみる。

前方後円墳の吾妻古墳の周囲は、お濠になっている。リンドウもまだ咲いていた。野草の種をたくさんズボンに付けて車道に戻る。そこから舗装されていない道を、水たまりに注意して歩く。そこを出ると、工場の周囲に植えられたイチヨウ並木が、紅葉しはじめていて美しかった。

ほうれん草畑やブロッコリー畑などが広がるところを歩いていくと、たわわに実ったザクロの木があった。たくさん地面に落ちているので、私たちも、ぱっくり開いた実をいただいて、甘酸っぱいきれいなザクロを食べた。

少し行くと、丸塚古墳があった。この古墳は円墳で、石室への入口があった。丸塚古墳を過ぎて、しばらく行くとしもつけ風土記の丘に到着する。おなかが空いたので、国分尼寺跡の近くで昼食タイムとする。いろいろなお菓子が回ってきて、おなかがいっぱいになった。

昼食後は、風土記の丘の中を歩く。まずは天平の丘に行くが、KHさんから電話が入る。どうもはぐれてしまったらしい。しかし、すぐに天平の丘が分かり、合流できた。天平の丘は、古墳を模して作られたものだが、白線の上で手を叩くと、ひびいた音がするのでおもしろい。



風土記の丘の中を歩き、「紫式部の墓」と伝えられている石灯籠を見る。伝えられているだけで、実際に「紫式部の墓」かどうかは、眉唾だ。

風土記の丘からは、国分寺跡を経て、大光寺橋を目指す。県道ではなく、田んぼの中の道を通ったため、今回、ここが一番厳しい道になった。しかし、Kさんは車椅子を電動で動かしたり、みんなで押したりしながら乗り越えることができた。

思川にかかる大光寺橋から川を俯瞰すると、かなり傷ついた大きな魚が何匹もいる。地元の人に聞いてみると、やはりサケだということだ。思川は、利根川から渡良瀬川を経てくる支流のため、利根川を遡上してきたサケということになる。遡上してきたサケを初めて見ることができて感激だった。

かなり長時間歩いたので疲れたが、あまりよ

い休憩場所がないので、西光寺で休憩することにする。休憩のあとは、最後に立ち寄る予定の大神神社を目指す。大神神社の境内には、日本一の広葉杉（コウヨウザン）があった。日本で一般的に見られる杉よりも葉が広い。広葉杉は中国から江戸時代に渡来したそうだが、中国では広葉杉を杉とよび、日本にある葉の細い杉は柳杉とよんでいるそうだ。



大神神社の脇から道路に出て野州大塚駅を目指す。道標があったが、途中からどうも地図とあっていないように感じて、広い道に出たが、どうも方向感覚が狂ってしまったようだ。ただ、太陽が沈みかけていて、そちらが西なので、私たちは間違った方向に来たことに気づいた。Nさんたちが他の方に聞いてくださったりしたこともあり、私たちは、県道2号線にいたことが分かった。



自分たちのいる場所が分かれば、あとは問題なく、野州大塚駅を目指せる。駅の手前で、Mさんは私たちと別れを告げ、知り合いの方の家に立ち寄った。

野州大塚駅のホームに立つと、太陽が西の空へゆっくり沈んでいった。オフロードの道も乗り越え、車椅子で完歩できて本当に良かったと思います。みなさまのご協力に感謝します。

★第16回ミニハイキング（北印旛沼）（11月26日）

参加者 会員(健常者6名)
会員外(健常者1名)

今回は、予定では8人の予定だったが、1人來なかったため、7人となった。

すばらしい天気恵まれ、下総松崎駅を出発する。せっかく望遠鏡を持ってきたが、ネジが壊れてしまい、三脚に付けることができなかった。重いだけの荷物になってしまい、残念だが仕方がない。

車道をしばらく歩き、北印旛沼に向かう農道に入ると、一面に田んぼが広がり、広々とした風景になって、気持ちがいい。チョウゲンポウらしきワシタカの仲間が早速現れて、飛んでいった。小さな鳥は、動きが早く、しかも遠かったため、識別できなかった。

ビオトープ中のため、魚を捕るなど書かれた看板があり、川の中を見てみると、メダカがいた。昔は当たり前のようにいたメダカだが、今では絶滅危惧種だということで、自然破壊が進んだことが残念だ。この小さな川は、ゴミが浮いていたりして決してきれいではないが、いろんな魚がいるようだ。張られてあった網に、大きめの魚がかかっていたらしい。

北印旛沼の堤の上を歩きたかったが、今年の大震災の影響でかなり崩れてしまい、現在は工事のため、立ち入り禁止となっていた。残念だが、ここにも震災の爪痕があったことをはじめて知った。

田んぼが広がり、遠くには筑波山が見える。

コースタイム

壬生駅(10:10)…吾妻古墳(10:45-11:05)…丸塚古墳(11:35)…風土記の丘(12:00-13:05)…思川(14:20)…西光寺(14:45-15:00)…野州大塚駅(16:10)

稲が刈られた田んぼには、アオサギが舞い降り、遠くには、タゲリの群れが餌を啄んだり、群れをなして飛んだりしていた。チュウヒやトビも舞っていた。

おなか空いたため、見晴の良い田んぼの真ん中で、少し早い昼食とする。通り抜ける車は少ないが、最徐行して土煙が立たないように気を使ってくださった。



昼食の場所から少し行くと酒直水門だった。酒直水門から対岸に渡り、さらに少し行ったところにある欄干の低い豊年橋を渡って安食駅を目指す。水門の近くでは、釣り人たちが数人、釣り糸を垂れていた。



長門川の畔で休憩していると、長門川に注ぐ

小さく浅い川に鮒が数匹横になっていた。死んでいると思ったら、まだ3匹生きているのが分かり、Kさんが長い棒を拾ってきて長門川まで鮒を運んでくれた。Kさんは、魚命救助で鮒から表彰されるでしょう！

そんなことをしていたら、カワセミが1羽現れ、飛び去って行った。一瞬だけ、見る事ができた。さらに、車がたくさん走る道のすぐ近

くにある小さな川のコンクリートの上にもカワセミがいた。

安食駅には、予定どおりの時間に着き、成田線で成田方面に向かった。

コースタイム

下総松崎駅(10:05)…昼食(11:25-12:00)…酒直水門(12:20)…安食駅(13:30)

講習会報告

★岩登り技術講習会（日和田山）（10月30日）

参加者 会員(障害者4名、健常者5名)
会員外(健常者1名)

今回は、総勢10名で実施することになった。会員外で参加したKさんが初参加だ。自己紹介をして、岩場を目指して歩きはじめる。橋を渡ったところで、Hさんと合流し、岩場に向かう。高麗川では、カワセミが飛んでいくところが見られた。

岩場に着くと、男岩にはロープがたくさんセットされていたが、女岩は、まだ1本もセットされていなかった。すぐに、女岩に行き、準備を始める。

まず、岩登りの基本的な3点支持などを覚えてもらい、手始めに、女岩南面の3級ルートを全員に登ってもらおう。一通り、3級ルートを登ったところで、少し早めの昼食タイムにする。柿やマリネ、そば用ニシン、コーヒーなどが回ってきて、舌鼓を打つ。持ってきていただいた

みなさま、ありがとうございます。

昼食後は、女岩南面の中央部の4級〜くらいのルートと、3級ルートのすぐ左側、そして、最後に一番右にあるレイバックのフェースを登る。



女岩の西面や男岩に移動すると、また違ったルートを楽しめるが、同じところで行うと、移動の手間がかからないので、回数をたくさん登れる。今回は、4ルートを登ることができた。

ロープを持参し、確保していただいたHさん、ありがとうございました。また、あまり登っていただけず、申し訳ありませんでした。

その他事業報告

★第8回八千代市市民活動サポートセンターまつり

今年で第8回目となる「八千代市市民活動サポートセンターまつり、こんにち‘わ’ふれあ

いまつり」にブース出展した。今年は、M. Yさんに実行委員になっていただき、数回の会議

や各団体配置のための下見、前日の準備、当日の運営など、最初から最後までご協力をいただきました。

当日は、M. Yさん、Mさん、Sさん、Aさんに、お手伝いしていただきました。

☆八千代市1%支援制度

今年度も申請した1%支援制度ですが、28,530円（届け出件数31件）の支援交付金をいただけることになりました。申請額

▲東日本大震災への義援金

4月から実施している山行などの際に残金として寄付していただいた金額は、10月2日の鷹ノ巣山までで102,337円となりました。この中から、10万円を東日本大震災への義援金として、日本財団ROADプロジェクトに、

△足立区生涯学習センターで登山教室実施

9月17日に足立区生涯学習センター主催の登山教室が実施され、理事長が講師として出席しました。登山に関する基礎知識をお伝えすると共に、当法人のPRもさせていただきました

各種連絡事項

▼山行計画の変更について

1月29日に予定していた赤久縄山を湯の丸高原（1月28日（土）～29日（日））に変更しました。3月末で閉鎖となる湯ノ丸ロッ

▽臨時総会の実施について

来年度の事業計画を決める臨時総会を、1月15日（日）に計画しています。詳細が決まり

◆第13回視覚障害者全国交流登山京都大会開催

13回目となる視覚障害者全国交流登山が、4月6日（金）～8日（日）にかけて京都で実施されます。「花背山の家」で交流を行い、登



210,000円には遠く及ばず、昨年よりも少ない金額でしたが、市民のみなさまからのご協力に深く感謝申し上げます。

10月12日に振り込ませていただきました。

なお、残りの2,337円は、当法人への寄付とさせていただきます。また、当法人の財政状況も厳しいため、東日本大震災への寄付は、これで終了とさせていただきます。

た。その結果、お一人の方が正会員として入会して下さると共に、10月16日の大平山にお二人の方が参加してくださいました。

ジが最後の利用となります。管理人さんとAさんに感謝の気持ちを込めて、利用させていただきたいと思います。

ましたら、お知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

山は比叡山周辺となります。次の14回目は、当法人が主催することになりますので、今回の登山大会には、多くの方に参加していただき、

大会の様子を確認していただいたり、次回のP Rをお願いいたします。

会 員 情 報

◎新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略)

正会員

3名

編 集 後 記

・理事長のつばやき

児童養護施設に入っている子どもたちや虐待を受けた子どもたち、虐待をしてしまう大人に関する本(児童養護施設の子どもたち・大久保真紀著)を読みました。

虐待を受けたことで、自己肯定感が低く、精神的に不安定な子どもたち、大人になると施設を出なければならぬのですが、人間関係を築くことがむずかしく、社会に受け入れてもらえないことで、苦しみは一層深くなり、犯罪などへと繋がってしまうこともあります。

また、親の深い愛情を受けずに育つため、子どもに愛情を向けられず、虐待をしてしまうこ

とが多いようです。

そんな中であって、何度も崩れ落ちそうになりながら、社会の一員として、しっかりと歩きはじめ人もいます。

そのように良い方向に向かうためには、虐待を受けた子どもや大人の状況を理解し、親身になって接する人がどれだけいるかにかかっています。

厳しい状況にいる子どもたちや大人のことをしっかりと見つめ、自分にとっても大切な学びの機会として生かしていきたいですね。

・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ!!

